

## 平成23年度第2回（第20回）磯辺地区学校適正配置地元代表協議会 議事要旨

**1 日 時** 平成23年6月27日（月） 10時～11時15分

**2 場 所** 磯辺地域ルーム（磯辺第一中学校内）

### 3 出席者

(1) 委員 22人

欠席：滝川委員、深田委員、

(2) 事務局 高須課長、白井主幹、加茂主査、山崎主査補、安井主査補

(3) 傍聴者 15人

### 4 報告・議題

(1) 【報告1】 役員改選に伴う委員の変更について

(2) 【報告2】 前回協議会を受けての各団体での協議について

(3) 【議題1】 中学校の統合について

(4) 【議題2】 次回開催日時・場所について

### 5 会議資料

(1) 資料1 平成23年度に算出した磯辺地区小中学校の状況

(2) 資料2 学区図

(3) 資料3 中学校の施設概要

(4) 資料4 校舎配置

### 6 会議の概要

(1) 【報告1】 役員改選に伴う委員の変更について

磯辺三小区内の自治会代表について、役員改選に伴い、委員の変更があったことを事務局が報告した。

(2) 【報告2】 前回協議会を受けての各団体での協議について

事務局が資料1～4の補足資料と前回までの協議内容を説明した後、前回協議会での中学校の統合時期は「小学校と同時が良い」、統合場所については「磯辺一中が良い」という意見が多く出されたことを持ち帰り協議した結果について、各学校代表の委員より報告があった。

(3) 【議題1】 中学校の統合について

中学校の統合時期と統合場所について協議した。議論の末、統合時期については「小学校と同時、25年4月とする」、統合場所は「磯辺一中の場所」とすることが合意された。

(4) 【議題2】 次回開催日時・場所について

今回は、平成23年7月25日（月）午前10時から12時、磯辺地域ルームで開催することとした。

## 7 発言要旨

### (1) 会長挨拶

現代社会において身につけなければならないものは、学力や知恵など様々なものがある。特に、知恵は競争社会において力を発揮するために必要であり、その源は教育である。知力で世の中をリードすることである。生活を豊かにしたり、経済を活性化させたりするために、子どもたちには自由で大きな発想がもてる人間になってもらいたいと考える。

### (2) 報告

#### 報告1 役員改選に伴う委員の変更について

<石塚副会長>

本日の委員の出欠席および委員の変更について、事務局に願います。

<事務局>

磯辺三小区内の自治会代表であるコージースクエア稲毛海岸自治会の役員改選に伴い、委員の変更があった。関委員にかわり、深田氏が新たに本協議会の委員となるので報告する。

<一同> 了承

#### 報告2 前回協議会を受けての各団体での協議について

<鳥越議長>

まず、事務局に資料の説明をお願いします。

<事務局>

前回協議会では、中学校の統合について「時期」と「場所」について協議をした。

「統合時期は小学校と同時がよい」という意見が大半を占め、「場所は磯辺一中がよい」という意見が多く出された。

これを受けて、各団体に持ち帰り伝達した上で、次回協議会で協議し、中学校の統合時期と場所を決定することが確認された。本日はこれに沿って進めていただきたい。補足として、資料1～4を説明する。

○資料1：平成23年度に算出した磯辺地区小中学校の状況

- ・平成23年5月1日現在の児童生徒推計
- ・中学校については、生徒数は減るが学級数の推移は変わらない。

○資料2：学区図（平成24年度の学区図）

- ・高浜第二小学校・高浜第三小学校の統合に伴い、高浜6丁目が磯辺第三小学校の学区に組み込まれる。

○資料3：中学校の施設概要

○資料4：校舎配置

- ・今年度の教室使用状況である。

○前回協議会で質問された耐震補強工事については

- ・工法は内付と外付の両方があり、どちらを選ぶかは施設の状況による。
- ・内付工法の場合、多少は狭くなるが授業に支障はない。
- ・工事期間は、夏休みなど長期休業を利用して実施するのが通例である。

ということである。

<鳥越議長>

質問はあるか。

<大浦委員>

外付工法とは、柱が窓枠に沿った形になるのか。

<事務局>

各学校の校舎の状況によって決まってくるので、様々である。

<鳥越議長>

では、各団体での協議結果について報告していただく。各学校の代表にお願いする。

<盛田委員>

磯辺一小は、統合時期は小学校と同時の25年4月、統合場所は磯辺一中とする意見が多い。地域のバランスを考えて、磯辺一中がよいと考える。通学距離についても、自転車通学をするほどの距離ではなく、通常の徒歩で通える位置の磯辺一中を残したほうがよいと考える。

<大和田委員>

磯辺二小は、前回の協議会の内容を保護者に伝えた結果、やはり磯辺一中がよいという意見が多かった。仮に、磯辺一中がなくなると現磯辺二小区内に学校がなくなり、避難所としてもなくなってしまうので、地域のバランスを考えて磯辺一中を残していただきたい。大通りに面しており校庭も広いなどが理由としてあげられた。磯辺一中は、子どもたちにとって良い教育環境といえる。

<位田委員>

磯辺三小としては、子どもたちのために早い時期の統合がよいと考える。但し、中学校は受験などのこともあり小学校より長い準備期間をとり、1年遅れの26年4月としたい。統合場所については、高洲・高浜地区から通ってくる生徒がいるので、できれば磯辺二中がよい。

<(磯辺第四小保護者代表)委員>

統合時期は、25年4月がよい。統合場所は、校地面積が広いなどいろいろな面から考えて磯辺一中がよい。

<磯川委員>

磯辺一中としては、統合時期は小学校と同時の25年4月、統合場所は磯辺一中がよい。校地面積や、磯辺の町を大通りで区切った各ブロックに学校がバランスよく配置されることなどを考えても、磯辺一中がよいと考える。

<山本委員>

磯辺二中では、アンケートを行った。前回の協議会の資料を添付して、保護者に配布した。回収率は、90% (253/287の回収) となった。その結果、統合場所は「磯辺二中がよい」が198、「磯辺一中がよい」が8となった。統合時期については「小学校よりも後がよい」が184と多かった。その理由は、小学校より中学校の方が受験などで先生方が大変であり、統合準備に時間がかかるだろうという意見が多かった。また、磯辺一中の周辺は、震災による液化化現象が残っており、もう少し様子を見たいという意見もあった。その他に、通学については、どちらの中学校になっても自転車通学を希望する、磯辺一中周辺には空き地が多く磯辺二中周辺は混雑しているなど、環境面などをもう少しよく考えてから統合した方がよいという意見があった。全体的にもう少し様子を見てからという意見が多い。

<松岡委員>

先日、保護者会役員による理事会があった。その中で、意見を聞いてみたが、この協議会の

決定に従うしかないという意見が大半だった。個人的な質問であるが、校舎改修では、仮に磯辺一中になった場合、磯辺二中が仮校舎となると思うが、どのくらい工事期間がかかるのか。年度途中でも、引っ越しが入ることもあるのか。

<事務局>

改修のボリュームによって、期間が変わってくる。引っ越しについては、現場の先生方の負担が大変に大きい。1年で改修が終わる場合は、年度末の引っ越しとなり、大変慌ただしい。1年半かかる場合は、夏休みの引っ越しとなり、ゆったり準備ができると考える。

<松岡委員>

統合準備を進めていく上で、気がつかなかったことも出てくる。ちょうど高浜二・三小と同じ状況であり、準備期間が長くても短くても進めていかなければならない。特に、中学校は進路の問題もあり先生方の負担を考えると、個人的には1年遅れの26年4月とした方がよいと考える。受験をひかえた子どもの保護者の気持ちを考えると、子どもが動揺しないようにと思うはずであり、準備期間をしっかりとった方がよいと思う。

### (3) 議題

#### 議題1 中学校の統合について

<鳥越議長>

学校の代表から、報告や意見を述べてもらった。もう一度、中学校の統合についての各団体の意見を確認する。

- ・盛田委員－ 磯辺一小としては、統合時期は25年4月
- ・大和田委員－ 磯辺二小としては、統合時期は25年4月
- ・位田委員－ 磯辺三小としては、統合時期は26年4月
- ・保護者代表委員－ 磯辺四小としては、統合時期は25年4月
- ・磯川委員－ 磯辺一中としては、統合時期は25年4月
- ・山本委員－ 磯辺二中としては、統合時期は小学校の統合よりも後の時期に統合
- ・松岡委員－ 高浜二小としては、協議会の決定に従うが、個人としては、統合時期は26年4月

これらの報告を踏まえて、協議1に入る。質問や意見はあるか。

<事務局>

ここで、準備期間について改めて確認する。まずは、9月に統合の要望書を提出してもらい、教育委員会で統合に向けての準備を進めていく。そして、10～11月頃、統合準備会を発足する。準備期間を十分とるために、1年半程度の期間としたい。先行している真砂地区でも、準備期間を1年半とって進めてきた。

4月に開校している真砂中に聞き取り調査を行った中で、準備期間を1年半としたことについて、十分な期間の中で進められたので大変よかったとの話であった。真砂中では、現在3種類の制服となっている。旧真砂一中の生徒は学生服、旧真砂二中の生徒はブレザー、新1年生は新しい真砂中の制服であるが、生徒たちは違和感なく活動している。

先日、体育祭を見にいったが、組体操など生徒たちの心が1つになり、大変すばらしい演技をしていた。現場の先生方からは、交流行事を十分行なった結果であると聞いている。準備期間を1年半としたことは適切な期間であったと考える。

<別所副会長>

前回の協議会で、中学校の統合については、統合時期は25年4月とするという意見で進んでいる。小学校と同時で行うという意見が大半を占めた。それを踏まえて、各団体に持ち帰って説明をしてもらい、本日決定するという確認であった。磯辺二中のアンケートについては、その真意が伝わったのかどうか疑問に感じた。

<山本委員>

今までの資料をよく読んで自分なりに整理した。小学校の統合時期は25年4月とすること、中学校については、今回統合時期と場所を決定することを保護者に伝えた。

<別所副会長>

小学校の統合についてはすでに合意されている事項であり、中学校については前回の協議会で、小学校と同時の25年4月という方向性が出ている。今回はそれを決定するというのである。仮に中学校の統合を26年4月とした場合、小学校の統合と連続するので、2回の統合を経験する子どもも出てくる。

<高橋委員>

中学校の統合については、協議会のコンセンサスである。

<鳥越議長>

前回の協議会で、中学校の統合時期と統合場所については、すでに方向性が出ている。

<一戸委員>

この協議会で決まったことが、決定事項なのか。事務局である教育委員会の統合に対する考えが見えてこない。

<吉岡会長>

この協議会で合意され、決まったことが決定事項となる。

<鳥越議長>

事務局のルールに乗っているのではない。ここで決まったことに従うという姿勢で進めていただいている。前回協議会では、中学校の統合時期は小学校と同時の25年4月ということになっている。

<青柳委員>

そういう意見が多かったということである。これで決定ということではない。

<鳥越議長>

その通りであるが、前回の協議内容を持ち帰り、本日決定することは確認済みである。

<一戸委員>

各団体に持ち帰って、時期や場所などが変更になってもよいと思う。その上で、この協議会の中で、きちんと決定すればよい。

<山本委員>

まずは、現場の先生方が大変苦勞する。今までそれぞれの学校で培ってきた文化など、大切なことがいろいろあり、慎重に考えていかななくてはならないと思った。決まったら、それに従うしかないと思うが、委員として保護者に伝えていく義務があるので、今回アンケートという形をとった。

<大浦委員>

工事期間や準備期間がどれくらいかかるのかということが資料から見えてこない。

#### <事務局>

想定した工事期間や準備期間を示すことはできるが、統合場所が決まらないとはっきりしない。ここで決定したあとに、スケジュールについて示していきたい。真砂中の例をあげると、旧真砂一中の改修は夏休み明け頃から来年24年6月頃までかかる予定である。その後の夏休みに、旧真砂二中から旧真砂一中に引っ越しをすることになる。このように、実際に統合場所が決まらなると、工事のボリュームなどの違いがあり、はっきり決定できない。

また、統合校には、統合による教員加配を行うなど十分配慮していく。例えば、真砂地区では、教員だけではなく、事務職員や技能員の加配も行っている。

準備期間については、先ほども説明したが、聞き取り調査からも1年半がよいと考える。例えば、準備期間を3年とした場合、かえって間延びしてしまい、教育課程を考える教務主任の先生が異動して変わってしまうなど、引き継ぎがうまくできなくなることも考えられる。

#### <大浦委員>

磯辺二中の保護者は、統合時期を26年とした場合、現在通っている中学生のほとんどが卒業してしまい、統合に関わらなくてすむという考えもあり、今回の結果となったのではないかと思う。

#### <石塚副会長>

自分も学校に携わっているが、準備期間を1年半とすることについて賛成である。例えば、音楽でワークなどの教材を使用するが、統合となった場合、同じ教材に統一することになる。2・3年先ということになると、担当もかわってしまい引き継げない。1年半であれば、きちんと見通しをもって決定できる。修学旅行についても、1年半前から行き先などを決めていく。

先日、統合校である真砂中の先生方に会う機会があった。子どもたちは、大変活動的で盛り上がっていると聞いている。準備することもいっぱいあるが、期間を設定すれば動ける。磯辺地区の場合は、小規模校が多く、一人の先生の分掌が大変多い。しかし、より良い教育環境にしていくために、準備期間を決め、仮校舎に入り工事を進めていくなど、順序を踏まえていくことが大切であると思う。

#### <山本委員>

まずは磯辺二中の代表として、今回アンケートをとり、中学校の統合について保護者からの意見を吸い上げた。こういう意見があるということをご了解していただきたい。

#### <安達委員>

真砂中に現在3年生の孫がいる。統合について孫に聞いてみると、部活も増え、大変活気があって学校が楽しいといていた。実態調査のためかテストも少し増えたようであるが。また閉校式では記念品のオルゴールをもらうなど、うれしかったようである。私は、中学校の統合は25年4月、場所は磯辺一中がよいと考える。

#### <鳥越議長>

それでは、前回協議会において、本日の協議会で協議し決定することが確認されているので、本協議会としての決定を行いたい。

まず、統合の時期については「小学校と同時、平成25年4月とする」ことで合意としてよろしいか。

\*拍手（了承）

では、統合時期については「小学校と同時、平成25年4月とする」ことを本協議会として合意した。

次に、統合場所については「磯辺一中の場所とする」ことで合意としてよろしいか。

\*拍手（了承）

それでは、統合場所については「磯辺一中の場所とする」ことを本協議会として合意した。

<山本委員>

念のために、多数決をお願いしたい。

<鳥越議長>

ただいま、委員から多数決をとりたいとあったので、よろしいか。（了承）

それでは、統合場所について「磯辺一中がよい」という方の挙手をお願いしたい。

（\*挙手15名）

次に、「磯辺二中がよい」という方の挙手をお願いする。（\*挙手7名）

ただいまの結果、「磯辺一中がよい」が15名、「磯辺二中がよい」が7名となった。よって、統合場所については「磯辺一中の場所とする」ことを本協議会として合意した。

もう一度確認する。統合時期については「小学校と同時、平成25年4月とする」、統合場所は「磯辺第一中の場所とする」ことを本協議会として合意した。

それでは、このあとの段取り・スケジュールについて、事務局より説明をお願いする。

<事務局>

皆様の熱心な議論により、磯辺地区の小・中学校の統合については、統合時期は小中学校とも平成25年4月、統合場所は小学校は磯辺四小、中学校は磯辺一中の場所とすることが合意された。次回の協議会では、これまでの合意された内容について取りまとめ、「統合の要望書（案）」を協議し決議の上、本協議会として教育長に要望書の提出を行う。提出の時期としては、遅くとも9月初旬となる。そして、年度内を目途に「跡施設利用の要望書（案）」の作成を進めていくことになる。

<鳥越議長>

次回の協議会では、「統合に関する要望書（案）」を協議するということであるが、その場で全員で文案を作るということは難しいので、会長・副会長で原案を作って、それを次回協議会に提示し、それに基づいて協議するということがよろしいと思うが、吉岡会長、いかがか。

<吉岡会長>

委員の皆様の了解があれば、会長・副会長で原案を作り、次回協議会で提示したいと思う。

<鳥越議長>

会長・副会長で原案を作り提示するということがよろしいか。

\*異議なし（了解）

委員の了解があったので、会長・副会長で原案を作り提示し、次回はそれに基づいて協議することとする。会長・副会長、よろしく願います。

<吉岡会長>

原案を作るにあたって、これまでの他地区の「統合の要望書」を参考にできればと思うが、今、事務局がお持ちならば示してもらいたい。

<事務局>

真砂地区の「統合の要望書」は持ってきているので、配布する。（要望書について簡単に説明）

<鳥越議長>

真砂地区の要望書も参考に、会長・副会長で原案を作り、次回に提示してもらうことにする。

## 議題2 次回開催日時・場所について

<鳥越議長>

次回の開催日時・場所を決めたい。次回は、7月25日（月）の午前10時から12時まで会場は本日同様磯辺地域ルームとしてよろしいか。（異議なし）

この会は傍聴可能なので、各団体のみなさんに開催日時の連絡をお願いしたい。

### (4) 諸連絡

<事務局>

○議事要旨をHPに公開したいがよろしいか（異議なし）。

後日、委員の皆さんには案を送付するので訂正等あったら期限までに返送をお願いしたい。返送がない場合は変更なしとさせていただく。

次回欠席の場合はご連絡いただきたい。代理出席も可能、その点も連絡いただきたい。

○本日の協議の状況について各団体に持ち帰り、伝えていただきたい。

○統合の要望書については、真砂地区の要望書を参考までに配布した。次回までに会長・副会長で原案をつくり提示していただく。

### (5) 閉会

<吉岡会長>

本日は、真剣な議論に感謝する。ここで、もう一度、適正規模について事務局より説明していただく。

<事務局>

千葉市では、学級数を基本に考え、12～24学級を適正規模として、学校適正配置を進めている。小学校の場合は、各学年2学級以上となる。クラス替えができ、子どもたちは多様な人間関係の中で社会性を育むことができる。また、野球、サッカー、合唱・合奏など、大人数で行う活動もしやすくなる。教員にとっては、単学級の場合、学年の仕事をはじめ校務分掌などの負担も多くなり、子どもたちと関わる時間ももちにくくなる。各学年2学級以上となれば、学年内の教員も複数となり多くの目で子どもたちを多面的にみることができる。

また、学級内の人数については、統合すると増えると思っている方々がいるようであるが、そうではない。現在、小学校1年生に限り、35人学級編制を実施している。これは、35人が最大人数であり、36人になると18人ずつの2学級に分かれるという意味である。その他の学年は40人学級といわれているが、千葉県では、実質的に38人学級編制を実施している。

そして、統合した場合、31人以上の学級のある学年については統合に伴う教員加配を1名つけることとし、少人数指導など、きめ細かな指導ができるようにしている。

このように、適正配置は子どもたちのより良い教育環境の整備と教育の質の充実を目指して推進するものである。